

地理 B

1 地域調査に基づき生徒自ら課題追究することに配慮した授業展開例

< 主題 > 地域調査を用いた身近な地域の人口特性の考察

< 解説 > 生徒に「向こう三軒両隣（無作為）の 5 軒の家族の性別と年齢」を調査することで地域社会の高齢化の状況を把握させる。岐阜県において飛騨地方と同じように過疎化が進行している地域では、高齢化の進行も課題となってくるであろう。体験的な地域調査を実施することで地域に関心を持たせ、生徒自ら地域的課題を追究する力を養わせたい。

2 視聴覚教材を利用して国家の特性を考察することに配慮した授業展開例

< 主題 > VTR と写真等の視聴覚教材を用いた国家の地誌的考察

< 解説 > 旧東ドイツは旧西ドイツとの統合によってどのような変貌をしたのだろうか。6 枚の写真から旧東ドイツが統一後も経済発展が滞っていることを理解する。また旧西ドイツにおいても統一により経済が停滞していることと生活環境の変化について理解し、ヨーロッパにおける統一ドイツの役割について関心を持たせたい。

3 地図を利用して地理的事象の関連性に主題をおいた授業展開例

< 主題 > モンスーンアジアにおける稲作の重要性を考慮した人口稠密地域の分析

< 解説 > 人口稠密地域は全地球的には温帯気候に分布しているが、アジアにおいては熱帯であるインドと東南アジアにも分布している。アジアのモンスーン地域を考察することで、人口の稠密は気候だけでなく、モンスーン地域における稲作文化が関わっていることを理解させる。また人口が多いことが、その地域の豊かさを示す指標であることを理解させたい。

4 資料を利用して地域の特性に興味を持たせることに配慮した授業展開例

< 主題 > 飛騨の自然環境を生かした農業の特性

< 解説 > 飛騨の産業は農業が基幹である。多くの村が「過疎の山村」であり、気候的にも地形的にも良い条件とはいえないが、それを克服して飛騨は“日本一のトマト”の生産地となっている。そのなかでも人口約 4700 人の丹生川村が、日本一といえるトマトの生産地となったことを考察することで、農業と自然環境とのかかわりについて理解し、世界の農業地域についての学習の序章としたい。